平成三十年　論語に学ぶ人間学セミナー　第九回

十年目の節目となった西はりまライオンズクラブ主催の論語セミナーも今年はあと一回を残すのみとなりました。毎月集う常連の皆様の顔を拝見しながら、論語の素読が大きな声でホールいっぱいに響き渡る元気の源を見るように感じました。全国で論語の勉強会はたくさんあると思いますが、ライオンズクラブや商工会議所が主催しての市民講座がこうして続いている例は少ないと思います。
受講者から三木英一先生が神戸新聞に載っていたとコピーを頂戴しました。(写真)
来年の講座は、論語の素読に加えて「中庸」と「先哲の名言に学ぶ」を企画しております。

■仮名論語　子張第十九

孔子の弟子の子張や子夏の言葉が出てきます。論語は、どこからでも読めて、参考になる言葉が出てくるのは、知識を教える教科書ではなく、人の道や上に立つ者の心構えを弟子が先生から聞いた言葉をまとめたものであるからということです。

子夏曰く、博く学びて篤く志し、切に問いて近く思う。仁其の中に在り。

子夏が言った。「博く学んで見聞をゆたかにし、志を厚くして切実に師友に問い、自分の実践上のこととして工夫するならば、仁の徳はおのずからそこに生ずるものだ。
三木英一先生からは、仁の徳を身につけるために必要なこととして、
「博学　篤志　切問　近思」と板書して教えていただきました。

■大　学

徳は本なり。財は末なり。

徳が本であり、財は末である。本である徳をおろそかにして、末である財を重んずれば、遂には民を争わせて奪い合うことを勧めることになる。

大学を素読する　伊與田覺

上に立つ人が徳を高めることに努めていくことで国家財政は健全化されるということであるとしめされています。現在の政治家に学んでいただきたいところです。格物・致知・誠意・正心・修身・斉家・治国・平天下となる八条目は、まず、自分が実行していく順序を示してあるとわかりました。政治家に求めるだけではなく、国民として一人ひとりが実践に努めていくことが大切なことでしょう。

■「心豊かに老いを生きる」(　三木　英一　著)

今回は「どの花見てもきれいだな」ということで皆さんでチューリップの歌を合唱しました。

「咲いた　咲いた　チューリップの花が

並んだ　並んだ　赤　白　黄色

どの花見ても　きれいだな」

論語の素読とは違う味わいが同様にはあります。大きな声で歌うと、子供に戻ったように感じるから不思議です。合唱の声がにこやかな顔と温かい心を生み出していきます。
「花は置かれた場所で咲く」と先生は話され、自分自身に置き換えると、不平不満ばかりを並べたてている日常を思い起こすことになりました。いかに厳しい条件のところであろうと、綺麗な花を咲かせる生き方を考えさせられるきっかけとなりました。
続いて、働き方改革や外国人労働者の問題など自分の持ち味を生かすこと、学校の成績で人生は決まらないこと、そして、日本人の持てる美的感性の素晴らしさを枯葉や虫の音に例えて教えていただきました。

人間学セミナーは自身を磨く為の良い機会になると思います。皆様のご参加お待ちしております。
次回は、本年最後の講義となります。12 月 12 日（水）午後 6 時 30 分からです。